

一年生の様子

担当 安田 美紗

「小学校に入ってたくさんことができるようになったよ。」「入学した4月はできなかったけん玉が毎日の練習でできるようになった。」「朝の支度が2学期よりも早くなった。」日々の生活の中でも、自分自身の様々な成長に気付く言葉が聞こえます。ランドセルはまだまだ重そうですが一生懸命登校し、学校生活や学習の進め方には慣れてきた様子です。

1月に生活科の学習で、今の自分を見つめて、どんなことができるようになったのかを考えました。そして国語の学習で、はじめてのスピーチ大会でできるようになったことや楽しかったことを伝える活動をしました。

また、新しく入ってくる1年生に、学校の楽しさを伝えられる2年生になるために、1年前の自分に思いを巡らせて、幼稚園や保育園のこどもたちに教えたいことや一緒に楽しみたいことを話し合っ計画・準備をし、交流会を開催しました。

これからも、何事にもすすんで取り組むよう声掛けをし、互いに力を合わせていくことが大切だということを伝えていきたいと思います。

道徳授業

担当 行徳 美季

道徳性は、あらゆる場でこどもたちが経験を通して体得した感じ方・考え方を基に養われていきます。そのため、学校の教育活動全体を通じて行われています。また、家庭や地域との連携が重要となります。

1月25日(土)には、道徳授業地区公開講座を開催しました。授業後には意見交換会を実施し、「スマホの使い方や持たせ方、SNSの使い方」について地域・家庭・学校のそれぞれの立場から意見を伝え合いました。この会を実施したことで、より地域・家庭・学校が一丸となり、現代のこどもの心と現状について共に考えていく時間となりました。ありがとうございました。

道徳科の学習は、答えがないとよく言われます。道徳科の学習で教材を用いて自分との関わりで感じたり、考えたりして、その理解した価値観を基に自分事として捉え、自分自身の心の中を見つめる学習です。そのため、みんなで正解を導き出したり、合意形成をすることで一つの答えを作り出したりする学習ではありません。だからこそ、自己を見つめることは大切であり、さらに自己について考えを深める時間に大きな意義があると思っております。

道徳科は3学期の通知表にこどもたちの様子を記述し、お伝えしますが、それも他教科の評価とは違った捉え方をします。特別の教科道徳は、児童の道徳性の成長の様子を把握することとして通知表に表記されています。すなわち、自己の生き方について考えを深めていくための学習だからです。